



茶園に設置された「e-kakashii」と同
機器が計測したデータ(左) 川根本町元藤川

茶園 IoT管理

川根本町、20カ所にセンサー

川根本町はIoT(モノのインターネット)を活用したスマート農業に乗り出す。町内の茶園などにIoTセンサーを設置して地温や土壌水分量などを計測し、栽培に生かす。農業経営の安定化や新規就農のハードルを下げるのが狙い。

経営の安定化図る

総務省の地域IoT実装推進事業の採択を受けて実施する。総事業費は約1700万円。ソフトバンクグループのシステム「e-kakashii」を町内20カ所(茶園は16カ所)に設置し、センサーで地温や土壌水分量、電気伝導度、気温、湿度、日射照度の6項目を10分間隔で計測する。

今後、JA大井川を中心に活用チームを発足しデータの分析と営農指導を行う。町内の生産者もパソコンやタブレット端末で確認ができ、蓄積されたデータと営農の知識を組み合わせることで、収穫時期の予測や必要な管理作業などが分かるようになるという。

町は協力農家を募集し、地域のバランスなどを考慮して計測場所を決定。既にセンサーの設置作業を終えた。町情報政策課は「経験や勘によって培われてきた栽培技術をデータで見える化し、次代につなげていきたい」としている。

(島田支局・土屋咲花)